
ガイア

玄竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガイア

【Nコード】

N3610D

【作者名】

玄竜

【あらすじ】

ガイアとは一体何物なのか！？私は密林のジャングルで恐ろしい出来事に出会った。3年前の出来事について覚えていることを出来る限り語ろうと思う。しかし果たして上手く語り尽くせるかどうかは自信がない。

第一話 序章

ここは南アフリカの密林のジャングル。私はロシアのマフィアの一員だったが、3年前のある事件がきっかけでこの地に逃げ込むこととなった。

3年前、それは私がまだ『ギース』と呼ばれるロシアの裏の世界を牛耳っている組織の一員となって間もない頃である。

その頃の私の仕事といえば麻薬の密輸であった。所謂

「運び屋」というやつだ。だいたい、上からの指示で麻薬をロシアからヨーロッパ、アメリカ、アフリカへと輸送する。

その日も、アフリカへ向けて麻薬輸送用のヘリに乗っていた。

ヘリには私の他に

「ケリー」と名乗る操縦士と、

「ガイア」と名乗る男が乗っていた。

ケリーはニューヨーク出身の中年男性で、以前は軍隊に所属していた、ヘリ操縦の訓練を受けていたらしい。

ガイアについてはロシア出身ということしか分かっていない。歳は30近くに見える。

この二人についての情報はこれ位しかなく、それ以外についてはよく分からない。何故『ギース』に所属するようになったのかも教えてはくれない。

因みに私について少し紹介しておこう。私はロシアの某都市出身で、歳は当時24才。小さい頃から盗みや喧嘩を繰り返していた。高校卒業後もうくに仕事に就かず、ふらふらしていたが、遊び仲間の紹介で『ギース』に所属することとなった。

ヘリがアフリカの某都市上空に近付いた頃、ガイアが妙なことを言った。

「ここは危険だ。これ以上は行かない方が良く。さもないと大変なことになる。」

第二話 疑念

「ガイア、どうした？大変なことって、一体何が起こるって言うんだ？」

「ん…いや、何でもない。気にしないでくれ。」

「そうか…」

その時の私にはこれから起こる出来事など知るよしもなかった。

へりはアフリカの某都市に着いた。我々3人は車に乗り換えて『ルージュ』という飲み屋に行った。そこで麻薬の受け渡しを行うことになっていたからだ。

飲み屋では

「ギルバート」という男が待っていた。目が合つと奴は私に話しかけてきた。

「よう、ドリー。待ってたぜ。遅かったじゃねえか。ブツは持って来たのか？」

「嗚呼、このバッグの中に入っている。」

「そうか、じゃあ貰っていくぜ。金はこのバッグに入っている。」

ギルバートはおもむろにバッグを私に向けて差し出した。

「よし、じゃあ中身を確認させてもらっぜ。」

ギャング映画でよくあるシーンである。私はギルバートから差し出されたバッグを確かめようとした。

「ちょっと待て。」

「ん、どうかしたのか？」

「その…後ろの奴は何ものなんだ？」

ギルバートは私の後ろにいたガイアを見て聞いてきた。

「あれか、ロシア出身の『ギース』の一員で、名前はガイアって言うんだ。」

あいつがどうかしたのか？」

「いや、何でもなし。ちょっと気になったただけだ。気にするな。」

「そうか、よし、確かに金は要求通りあるようだな。」

私はこの時、ギルバートといい、ガイアといい、妙な違和感を感じていた。

第三話 祭

「それじゃあな。」

我々3人はギルバートから受け取ったバッグを持って飲み屋を出ようとした。

「お前ら、今日はどうするんだ？」

「今日は3人で近くのホテルに泊まるつもりだが。」

「そうか、…、今日は気をつけた方が良さそうぞ。」

「ん、何かあるのか？」

「今日は…、『ガイア』と呼ばれるこの地に古くから伝わる守り神を奉納する為の祭があるんだがな。」

その祭つてのがくせ者でな、何でも祭の夜になると死者が生き返るっていうんだ。

まあ、多分迷信だとは思うんだが…。」

「ん？ガイアだって？俺の後ろの奴もガイアって言うんだぜ。何か嫌な予感がするな。」

その時俺は背中に感じる寒気で体中の震えを抑え切れずにいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3610d/>

ガイア

2010年11月2日14時56分発行